

60年ぶり確認の藻類 展示 きょう井の頭公園

都立井の頭公園（武蔵野市、三鷹市）で10日、「井の頭池 生きもの博」が開かれ、井の頭池で約60年ぶりに確認された絶滅危惧種の藻類「イノカシラフラスコモ」が初めて展示される。9日の予定だったが、雨で順延された。

イノカシラフラスコモは1957年に井の頭池などで発見された日本固有種。その後、井の頭から姿を消し、現存する生育地は千葉県市川市だけだった。5月に都などが池を調べたところ、約1500株が発芽しており、一部を採取した。

井の頭池では2014年から、池の水を抜いて外来種を取り除く「かいぼり」をしており、その効果と見られている。生きもの博を運営するNPO法人「生態工房」の佐藤方博事務局長は「フラスコモは、池底まで光が届き、わき水で水温が低く保たれないと育たない。かいぼりの成果がこんなに早く出るとは思わず、驚いている」と話す。

野外ステージ前広場で午前11時～午後4時。かいぼりに携わった市民たちが解説する。無料。